

2018年8月10日

シーメンスヘルスケア／医療アプリを提供するアルムと協業を開始

シーメンスヘルスケアとアルムは、医療におけるデジタル化の推進、ならびに医療情報の共有において新たなかたちを提案していくため協業を開始した。

今回の協業のひとつとして、シーメンスヘルスケアは、全国の医療機関に対してアルムの汎用画像診断装置用プログラム「Join（ジョイン）」の導入サポートを行っていく。シーメンスヘルスケアの持つクラウドサービス「teamplay（チームプレイ）」とアルムの「Join」は、ともにクラウドで医療情報の活用や共有を目的としており、親和性も高いことがその理由。

「teamplay」は、シーメンスヘルスケアが2016年4月より提供している、被ばく線量の管理や装置の稼働率の把握などができる医療機関向けクラウドサービスであるが、これまでは、モダリティを中心としたビジネスインテリジェンス（医療機器からのデータを収集、蓄積、分析、報告し、迅速な意思決定をサポートできるよう加工する）機能をメインとして使われてきた。今後は、医療におけるデジタルエコシステムの発展を視野に入れ、teamplayは多機能プラットフォームへと進化していく。

一方、アルムが提供している汎用画像診断装置用プログラム「Join」は、医療関係者がクローズドな環境で医用画像の共有を行いながらチャット形式でコミュニケーションをとることができるアプリケーションである。医療機器の認証を取得しているプログラムとして日本ではじめて保険収載されたプログラム医療機器で、国内では約150の医療機関にて、夜間休日などに院外にいる医師へのコンサルテーションツールとしての活用や、救急患者の転院の際の病院間連携・情報共有などに利用されている。

以上